

## 《憧れの硫黄尾根、敗退の記録》

3日目の陽が落ちた頃、やっと尾根の半分であるコルにたどり着いた。

ここは槍ヶ岳まで9km続く硫黄尾根の赤岳南峰手前のコル。

私たち二人は仲間から送ってもらった天気を見て不安いっぱいだった。明日稜線はホワイトアウト、明後日から風が強まり、その翌日は26m/sの風、ここまでの遅れと、ここから先には赤岳核心部が待っている。ガス&食料、そしてヘッデンまでも残量を気にしていた私たちはここから引き返すことに決めた。

それにしても5日を超える入山は年末年始の八海山に続き今回が2回目。敗退するにも、下りの方が難しいのはわかりきっているし、、夜になってだんだん強くなる風の音を聞きながら、不安いっぱい、なんとか眠りについた。

\*\*\*\*\*

### 【3/8 DAY1 葛温泉～高瀬ダム～避難小屋 (快晴)】

バスタ新宿から信濃大町までの高速バス、そこからタクシーを乗り継ぎ、昼過ぎに葛温泉高瀬館のゲートから歩き出した。出合まで6時間、そんなにかかるのか？と思いながら20キロを超える荷物に足裏もすぐ痛くなり、とにかくペースが上がらない。

高瀬ダムまでつづら折りの舗装路を登り、ダム先のトンネルを超えると雪、ここでワカンを付けた。ちょうど暗くなるころやっと無名避難小屋に到着。ここから二俣まであと1時間か、水が取れること、明日の撤収が楽なことを言い訳に今日はここで行動を終える。



高瀬ダムまでの九十九折の登り



ダム先のトンネル抜けたところからワカン履く

### 【3/9 DAY2 避難小屋～二俣～P3&P4 コル (晴れ、-15°C/-12°C、北西 8m/s)】

二俣まで2時間強、だいぶかかってしまったにもかかわらず渡渉は慎重だった。なにせ冬の渡渉は初めて（名張のそれとはわけが違う！）初日ここで浸水したらそれこそ敗退だ。今回は鈴さんに教えてもらって、膝までのでかいビニールに、底だけ足首までの 0.08mm 厚めビニール+アイゼンというスタイルで挑んだ。計4回の渡渉は何とかクリア。ただアイゼンでビニールが破けやすいし、左右のビニールを引っ掛けそうで今後の課題。

さて気を取り直して硫黄尾根に乗る。そして 2,031m を目指して歩き始めるも、モナカ雪の急登はストック付きながらじゃ歩けず、基本ダガーポジションで高度を上げていく。重荷がのしかかって腰とふくらはぎにダブルパンチを食らわせられた（苦笑）やっと着いた 2,031m は展望もよく大休憩しながら、こっからまだ長かったので少し追い水作りをした。硫黄岳前衛峰は千丈沢側に雪庇が出ていた。陽当たりよい腐り雪は、蹴り込むと 10cm 下の弱層から「ポフっ」という不気味な音と共に崩れていく。P1&P2 間は湯俣側を巻き。P3 は雪壁直登し、ピークから千丈沢側ブッシュを掘って捨て縄懸垂 20m×2 回。下降点からコルまで 15m 登り返し湯俣側を小さく巻く所、狭くてザック引っかけたら死ねたのと、疲れもありワンポイント確保した。

P3 先の小ピークもテントが張れそうだったが、その先のコルが広く平らで快適だった。この日は風もなく平和な幕営となった。



課題残る渡渉、



2,031m で水作り



P1&2 の巻き。ブッシュは友達♪



P3 & 4 コルは広くて快適なテン場だった

**【3/10 DAY3 P 3 & 4 コル～硫黄岳～赤岳南峰コル (晴れ、-9°C/-6°C、南 5m/s)】**

遅れもあったし5時半に出発予定だったが、もたもたして1時間押しで出発。P 6まではスムーズに到着。というかP 5は顕著なピークなく気づきさえもしなかった。P 6から小次郎のコルへの下降は、尾根の入り口分からズルンゼから下降した。

さてここから硫黄岳への400mの登り返しをするわけだが、ここが結構悪かった。核心は3つ。

- ① 最初の尾根が南へ角度を変えるナイフリッジ。後半は雪庇の間を抜けたが雪ぐさぐさで怖い
- ② ナイフリッジ抜けた後の木から岩のギャップのある雪壁を、ロープ50m いっぱいで
- ③ 硫黄岳頂上直下の急雪壁。ロープ迷ったけどかなり急で雪状態も悪く1ピッチ確保ほか、全体に東面で雪ぐさぐさの急登が多く、時間かかってしまった。

硫黄岳に出て大休憩。その先の硫黄台地は広く360°のパノラマ。北鎌尾根、槍ヶ岳はもちろん表銀座、裏銀座まで見渡せた。硫黄台地は広葉樹も多く、風をよければテント張り放題といった感じだった。

硫黄台地から雷鳥ルンゼの下降点が分からず、下りやすい方に進んでいたら台地西のルンゼ降りてしまった。(ルンゼ200mを懸垂数回&クライムダウンで下ったのち、100m登

り返すという大幅タイムロス、、、) 2 時間半かけてようやく赤岳南峰 2,459 前のコルに到着した。ちょうど夕闇が落ちたところだった。

そしてこの夜、仲間から送られてきた天気予報を見て敗退を決定。だんだん強まる風は私たちを不安にさせたが、22時頃だったかトイレに目を覚ますと月明りが眩しく風も収まっていた。そうか、これだけ月明りがあれば、天候によっては深夜の行動もありだなあと、そんなことを考えながら再び床に就いた。



P4 ピークからの下り。水俣川を巻いたら悪目。岩通しでもよかったかも



P 6 ピークから硫黄岳を臨む



核心①ナイフリッジ



核心②木から岩のギャップある雪壁



核心②終わり、硫黄岳頂上と核心③が前に見える





硫黄台地から真正面に北鎌尾根と槍ヶ岳が見える



硫黄台地からの懸垂下降



懸垂途中。前に見えているコルに上がれば近道だったと思われるが、ここから更に下る



200m 下ってきて 100m 登り返す。疲労のせいかコルは近いようで長かった



18 時、やっと赤岳南峰前のコルに到着



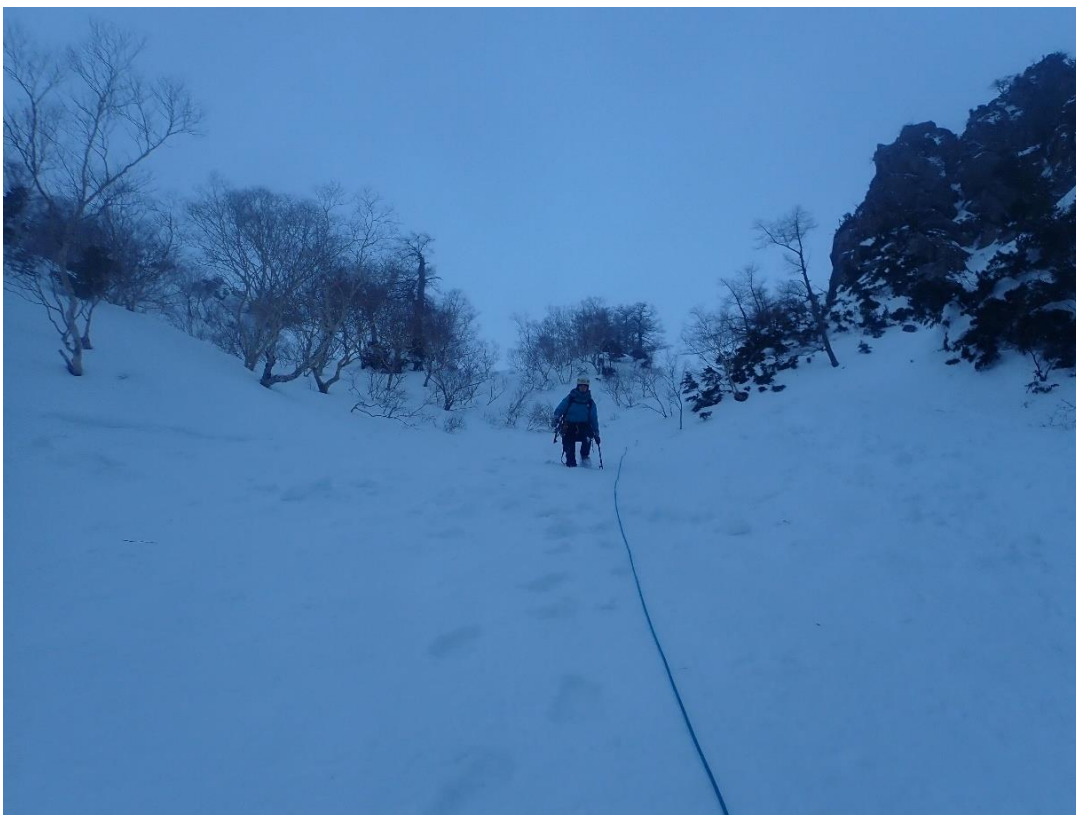
風強まる前。

吹きっさらしになるので不安だったが、意外にも夜中は月がきれいで風も弱かった

**【3/11 DAY4 赤岳南峰コル～硫黄台地にて停滞（霧のち風雪、-12℃/-10℃、南西14m/s）】**

天気予報は午後からホワイトアウト&強風。硫黄尾根からの下りが悪いのもあり、今日は硫黄台地まで戻って停滞することにした。コルから直接台地に上がる方法も検討したが、「時間かかっても確実な方法で」という共通認識のもと、昨日同様大巻きで台地を目指す。台地に近づくにつれ斜度が増し、ロープを出してのコンテとなった。

台地に戻ったのが10時。正直迷ったが、硫黄岳からの下りに入ったらドハマりするのが目に見えていたため、ぐっところえて幕営準備にかかる。今日はここでじっくり休んで、明日ベストを尽くせるように切り替えが必要だった。そして結果的にこれが正解だったように思う。というのも時間がたっぷりとれたので、明日からの行動についてあれやこれや作戦を練ることができた。幕営候補地、各幕営地の通過ミリット、危険個所の下降方法想定などなど。明日硫黄岳～小次郎のコルまでタフな下降になりそうだったが、想定プランを複数考えておくことで、明日の行動を可視化できたのはメンタル的にもよかったし、実際に翌日の余裕ある行動にもつながった。



朝一、昨日登ってきたルンゼを下っていく。この後少し下り過ぎて修正



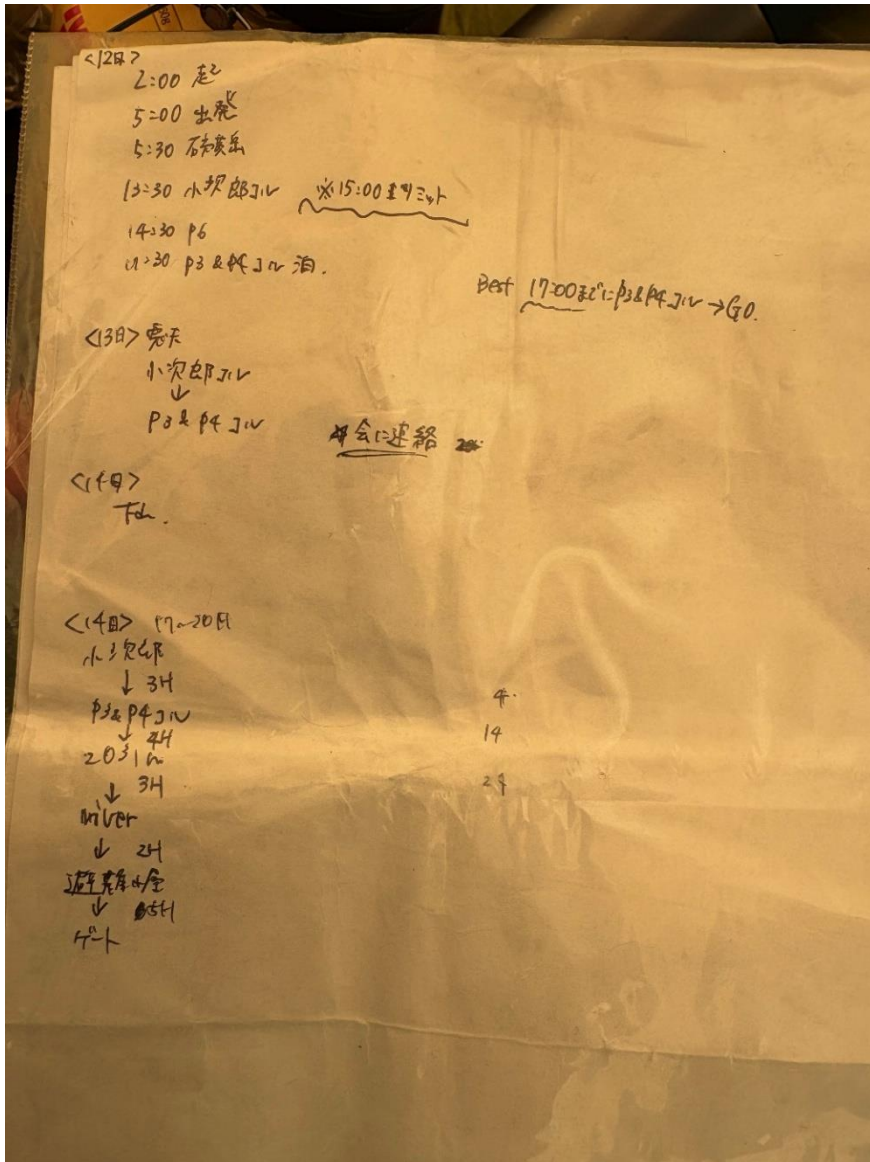
ルンゼ上部は結構急。チリ雪崩が怖い



10 時に硫黄台地に着くころには風雪。時間が早い幕営地を探す



天候が荒れる予報だったため、念入りにブロックを積む



テントで明日からの作戦を練る

**【3/12 DAY5 硫黄台地～硫黄岳～二俣～避難小屋 (晴れのち雨、-7°C/-5°C、南西16m/s)】**

本日の天気予報は「風 AM 9 m/s、PM15m/s、夜 16m/s、午後から 2300m 以下では雪が雨に変わる可能性あり」。明日の予報は「晴れるが穂高稜線では強風 AM から 26m/s」。明日の強風を考えると雨の状況が許す限り本日中に硫黄岳～硫黄岳前衛峰を抜きたい。今日が勝負か。

出発して30分、硫黄岳を超えたところで日の出を迎えた。よかった、今のところ天気は良好、少なくとも小次郎のコルまでは天気が持ってくれるだろう。

さて登ってきた3つの核心を超えていく。

③ ブッシュを掘り出し懸垂⇒進むべき方向に木がなく、鈴さんリードで10m　トラバースルート修正

②いったん正しい箇所までリード&フォロー⇒懸垂1回でナイフリッジ前の木まで

① ナイフリッジは最後の細った雪庇下を巻き、コンテに切り替えリッジ場を慎重に通過危険箇所は過ぎたが、ナイフリッジから先は始終アイゼン団子に苦戦。一歩ごとに落とさないと本当に滑落しそうだ。

予定をだいぶ巻いて P3 & 4 コルに到着、と同時に雨が降り出す。一瞬迷ったが、P3 だけ超えてしまえば樹林帯に逃げ込むことができるし進むことにした。懸念していた P3、往路懸垂したこの箇所は岩通しの直登が難しく、地形図見て少し戻ったコルから湯俣側のルンゼ巻けそうと判断。トラバースでは相変わらずの雪質に苦勞するもルート取りはよく、無事に樹林帯へ。2,031m　に着くころには雨足も強まり身体の濡れで止まると寒い。休憩もそこそこ下降継続。いつでも幕営できたが避難小屋まで行ければ屋根も水もあるということで辛抱して行動を続ける。

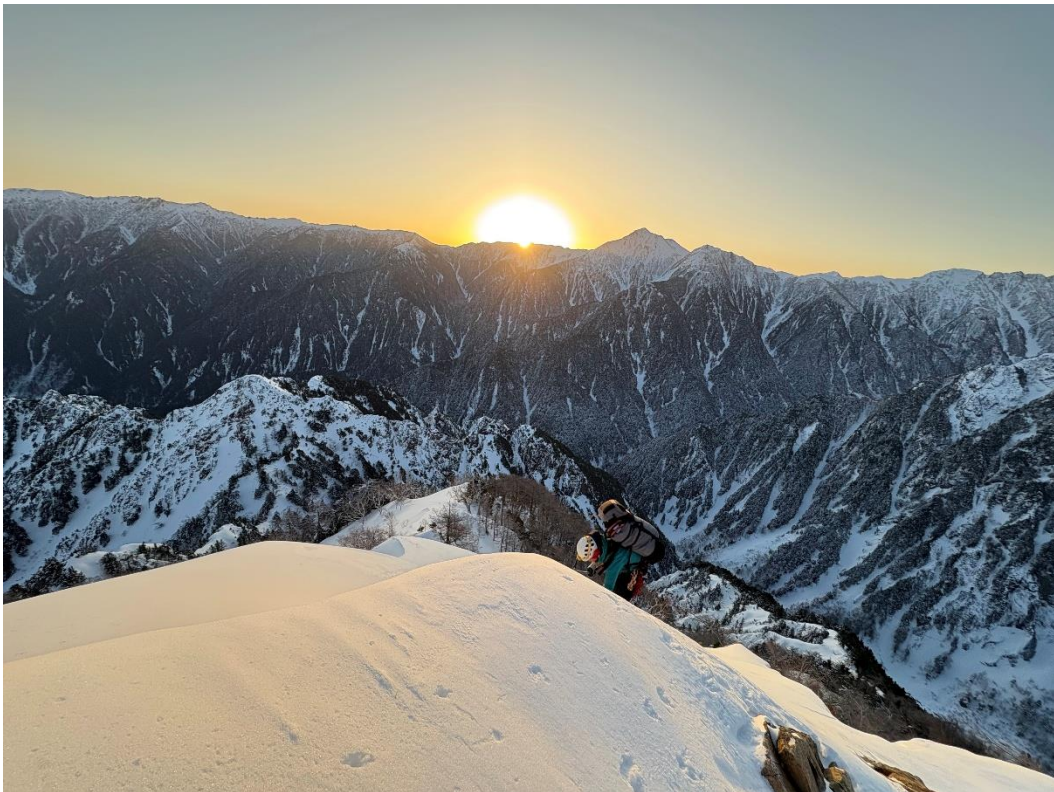
水俣川まで下りは早かったが、数えきれないほど腰までズボリ、全身びしょ濡れ。もはや渡渉は濡れても変わらなかったかもしれない（一応気持ちだけビニール履いたが）

そこから避難小屋までは2時間強、途中でヘッデンになりヘロヘロで避難小屋に降り着いた。





6 時、再び硫黄岳ピーク。もうすぐ日の出を迎える



日の出。こっからの核心はあるが、ひとまず天気は持ってくれそう



1 1時半再びP 6から自分たちのトレースを眺める。雲行きが怪しくなってきた



P3 を湯俣側のルンゼから巻く。雨と雪団子との戦い、、

### 【3/13 DAY6 避難小屋～葛温泉ゲート（晴れときどき曇り、-5°C/-3°C、西北西 24m/s）】

遅くても 9 時に出発と話して就寝したが、目を覚ましたのは 8 時前、言うまでもなく疲労感たっぷりだった（笑）夜のうちに吊るしておいた装備も乾くはずはなく、グダグダと準備を始める。

10時半出発。小屋を一步踏み出した瞬間、「痛っ」右足首に痛みが、、、これはまずい。昨夜小屋に着いた時から薄々感じていた痛み、靴を履けば大丈夫だと思っていたけど想像以上に悪い。なんで昨夜は歩けたのか?!自分が超人に思えたほどだ（笑）小屋で鈴さんのサポーターを借り、仕切り直し。出発前に「私が持つよ」と提案したロープも鈴さんにお返しした（すみません!）

雪があるパートは少しでも足首に角度が付くと痛いので、まっすぐ足を着くように慎重に進む。高瀬ダムからは雪がなくなり、痛みも引いて問題なく歩けるようになった。ダムで鈴さんは持ってきていたアプローチシューズに履き替える。「いいなあ!」と羨んでいると、なんだか調子が悪そう。濡れでふやけた足に薄っぺらいソールはダメージ大だったらしく、足裏にマメができてしまったようだ。

この日は平日だったのもあり、高瀬ダムでは春に向けて作業が行われていた。行きには真っ暗だったトンネルも電気が付き、私たちの横を作業車が何台も通過していく。心の中では「乗ってく?」の一言を期待しながらも、このあまりにたくましそうな女子(?)に声をかけてくれる優しいイケメンは現れず。「乗せてください」とお願いする勇気もなく黙々と歩き下山した。(もうちょっとケガ人っぽい感じで歩いた方がよかったか、、、)

そうそう、足首の痛みについて後日整体にいったのだけど、「まあオーバーワーク。あと朝だから身体が温まってなくて痛み出たのでは?」とのこと。

今回敗退はもちろん天気と雪の状態もあるけど、まあ、トレーニング不足、装備不足（ガス缶、ヘッドンバッテリー、食料）もあり反省が多い。ただ、初めての敗退で緊張感ある中二人でベストを尽くせたのは、間違いなくいい勉強になった。

#### \*\*行程\*\*

##### DAY1

12:50 葛温泉

18:00 避難小屋泊

##### DAY2

4:40 出発

7:00 二俣  
8:00 渡渉完了  
9:00 硫黄尾根上  
13:00 2031m  
14:30 P2  
17:30 P3  
18:00 P3&4 コル

### DAY3

6:20 出発  
8:00 P6  
8:40 小次郎コル  
9:00 ナイフリッジ  
9:30 リード①(~10:30)  
12:30 リード②(~13:10)  
14:00 硫黄岳  
15:00 硫黄台地  
15:30 雷鳥ルンゼ下降開始(~17:00)  
18:00 南峰手前コル

### DAY4

6:00 出発  
10:00 硫黄台地

### DAY5

5:20 出発  
6:00 硫黄岳  
10:30 小次郎コル  
11:30 P6  
13:00 P3&4 コル  
16:30 渡渉(~17:00)  
19:40 避難小屋

### DAY6

10:50 出発  
16:30 葛温泉